

行仙ノ宿、継の窟

平成二十六年五月二十四日、二十五日

茂原 治

五月二十四日午前八時過ぎ、初夏のすがすがしい朝日を浴びながら、懐かしい補給路登り口に。平野さん、田原さんとともに平澤 研の運転で。

午前四時の集合に間に合うように、荒木さんが田原さんを、もはらクリニックまで車で送ってくれて。

茂原 仁は、紀伊田辺よりで、先着。

まもなく、蛭田さん、皆川さんも到着。

と思うまもなく、沖崎さん、山上さん、生熊さん奥さま、児嶋さんと合流。

伸び盛りの若きNHKディレクターの近藤慶一さんとの出逢いも。

宿では、前泊の川島代表、生熊さんとご一緒の、東大阪からの青木さんとも初にお目にかかりました。

行者堂で、生熊さんの般若心経で、参加者一同心あたらに身を清めます。

今回は愚妻手製の弁当ではなく、お気に入りの紀伊田辺のパン屋さん2軒から仕入れたパンと野菜ジュースで、朝・昼の空腹を満たします。

この昼食はもちろん、夕餉、翌日の朝餉、昼餉も突き抜けた心配りをたくさん添えていただいて、胸も腹もいっぱい、有難くいただきます。

生熊さん夫妻からいただく、心こめて盛られた甘夏、バナナ、みかん。

児嶋さんにも甘夏を食べやすく切っていただいて。

青木さんからの気配りのホット・ケーキ。

山上さんから、豪華版、新宮銘菓、鈴焼き。

川島代表から、新種の甘いみかん。

沖崎さんの奥さまからボリュウムたっぷり超豪華版、焼肉コース。

いつもながら、帰って計れば、汗を流したとは思えぬ体重増。

まずは、全員、水汲み行を勤めさせていただいて。

補給路普請班、水場道普請班、食事班の三班で、それぞれ努めを。

いつもながら妥協は許されません。『手抜きなし』が問われるひと時です。

夜は、山上師範自らの「スズメの学校」を中心軸に、広く大きな宇宙観、生命観に接し、わが身に与えられた真髄に磨きをかけます。

翌日は、「継ぎの窟」への必死の荒行。

仁の脳裏に、思わず幼い子供たちの顔が浮かびます。

徳舛さんも、たった一時間余りの睡眠で、荒行参加。帰宅してから、興奮さめやらぬ中、幼い子供に自慢話を。

今回もまた、得がたい教えを。ボランティアは、善意とは異なる。

それは、『責任』ということのようです。無償の、掛け値なしの『責任』。

ボランティアで危険箇所をロープを張ることは善意ではなく、それを利用される人さまのいのちに責任を持つということのようです。

もはらクリニックは、「自利利他」をひとつの旗印にしていますが、「利」を超えて、ぐるーぷの活動とは他人さまのいのちに責任をもつという『覚悟』と、そういう自分にごまかしは許さないと自ら『覚悟』のようです。

期せずして、身内のことではありますが、平澤が懸念していた参加者への傷害保険。

川島代表もこのボランティア活動をまっとうすべく、ぐるーぷ傷害保険に心を割いておられました。

未熟なわが身。これからも出逢いをよろしく願います。

行仙宿・道普請作業に参加させていただいて

平成二六年五月二四日～二五日

腎・循環器 もはらクリニック 平澤 研

新宮山彦ぐるーぷの活動に参加させていただくようになった頃は、「茂原家強化合宿」とこちらで勝手に題し、写真などをまとめておりました。その後、「もはらクリニックスタッフ研修」とこれも勝手に題し、患者さんに向けて報告をしておりましたが、今やスタッフ以上に、「上富田クリニック」や「もはらクリニック」に関わる取引先（製薬会社、医療機器メーカーさんなど）の方々の参加者が多くなってきましたので、何と題したらよいものかと思案しております・・・。

それはやはり、このような活動を私たちが関わるより多くの方に体験していただきたいという思いから、必然的にそうなってきたのだと思います。ぐるーぷの活動には、まだまだお役に立てていませんが、この活動に参加することを生継続していきたいと考えている私にとっては、多くの方にお声をかけさせていただく中で一人でも多くの同世代の仲間を欲しているのかもしれない。

前置きが長くなりましたが、今回のご報告です。今回、「もはらクリニック」のスタッフは奥様の出産（児玉氏）や、体調不良（荒木氏）で参加者が減り、初参加の平野氏一名となっていました。兩名とも非常に楽しみにしておりましたので、また秋の機会に参加していただきたいと思っております。また、私の愚妻・瑠美も「次回を」と楽しみにしておりましたが、こちらも体調不良により参加出来ず、初参加の女性を一人にしてみました。危険しておりました（生熊さんの奥様のお名前を計画書の中で発見し、大変安堵しました）。

そしてこちらも初めて参加してくださった、前日から十津川温泉入りの大名旅行で口火を切った日機装チーム（蛭田氏、皆川氏）は、車の鍵を山中に投げ込み、懸賞金をかけるといふ、ど派手な遊山（実際には鍵が見つかるま

では、この世にない悲壮な表情の皆川氏でした。青木さん、懸命な搜索、本当にありがとうございました。一方、仕事のため前日から一時間だけの睡眠で、枚方より駆けつけて下さった徳舂氏（トクハル）。初対面ながらも意欲的に参加して下さった山好きイケメン、田原氏（岸和田徳州会病院）。どの方も今回の参加を大いに楽しんで下さり、貴重な経験になるとともに、次回への参加意欲も表して下さったものと感じております。

荷揚げや道普請で大変な思いをする中で、多くの感動をいただき、「また行きたい」と思える裏には、ぐるーぷの皆様の多くのご配慮を感じております。達成感を味わえる作業の組み立て、山の中とは思えない豪勢なお食事、多いに盛り上がる懇親会、どれも皆様の細やかなご配慮があつてこそと思っております。道普請をお手伝いするつもりが、逆に色々とお手を煩わせてしまっていることと思えます。改めまして、川島代表、山上さん、沖崎さん、児嶋さん、生熊さん、奥様、青木さんに心よりお礼申し上げます。取材にいられていましたNHK和歌山・近藤さんとの出会いにも感謝。また、玉岡前代表のお元氣なお姿に再び接しうるものと信じております。